

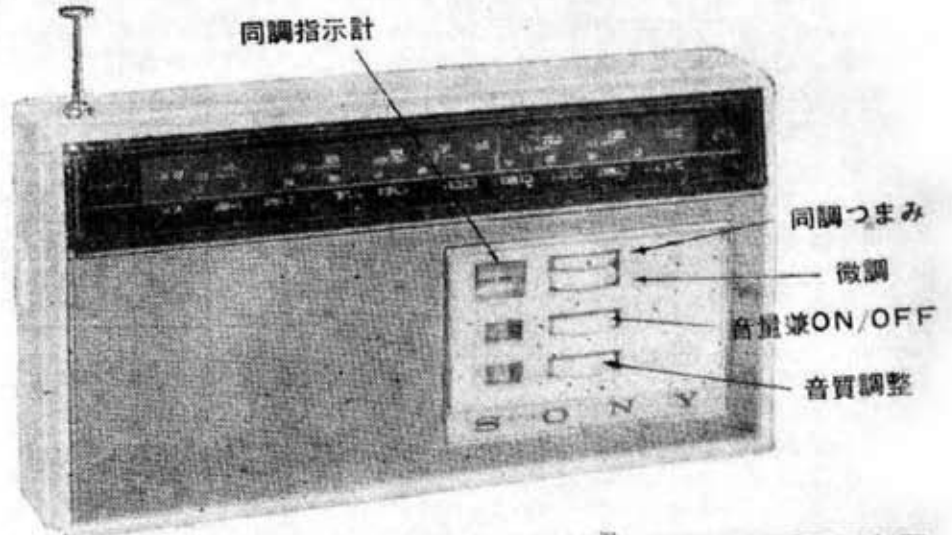
9石2Band TR910形 正価 16,000円

調節兼電源スイッチ、音質調節つまみ、同調指示計はセット前面右側にまとめて配置され、操作に便利である。BC-SW 切換えスイッチはセット右側面、2個のイヤホンジャックは左側面に、またセット上面左端にはロッドアンテナ(10段 80cm) および外部アンテナ端子がある。

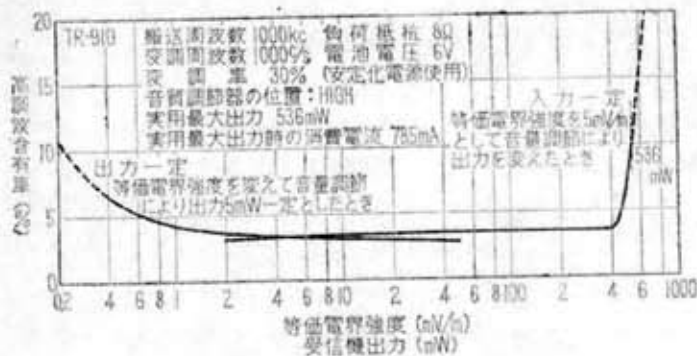
セット裏側の電池交換用の蓋を外すと検波出力取出し用、および低周波入力用端子がある。

〔測定結果〕

感度特性はBCではS/N 20dBのとき $180\mu\text{V}/\text{m} \sim 300\mu\text{V}/\text{m}$ で良好、今回測定したものの中では一番良い(ただし

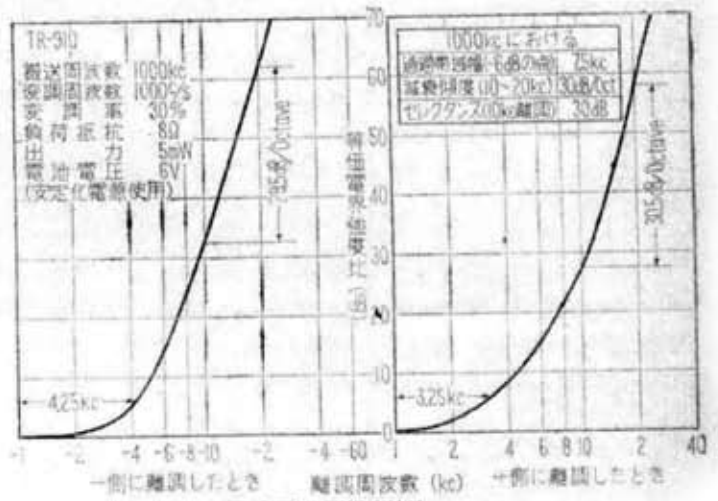


パネル上面



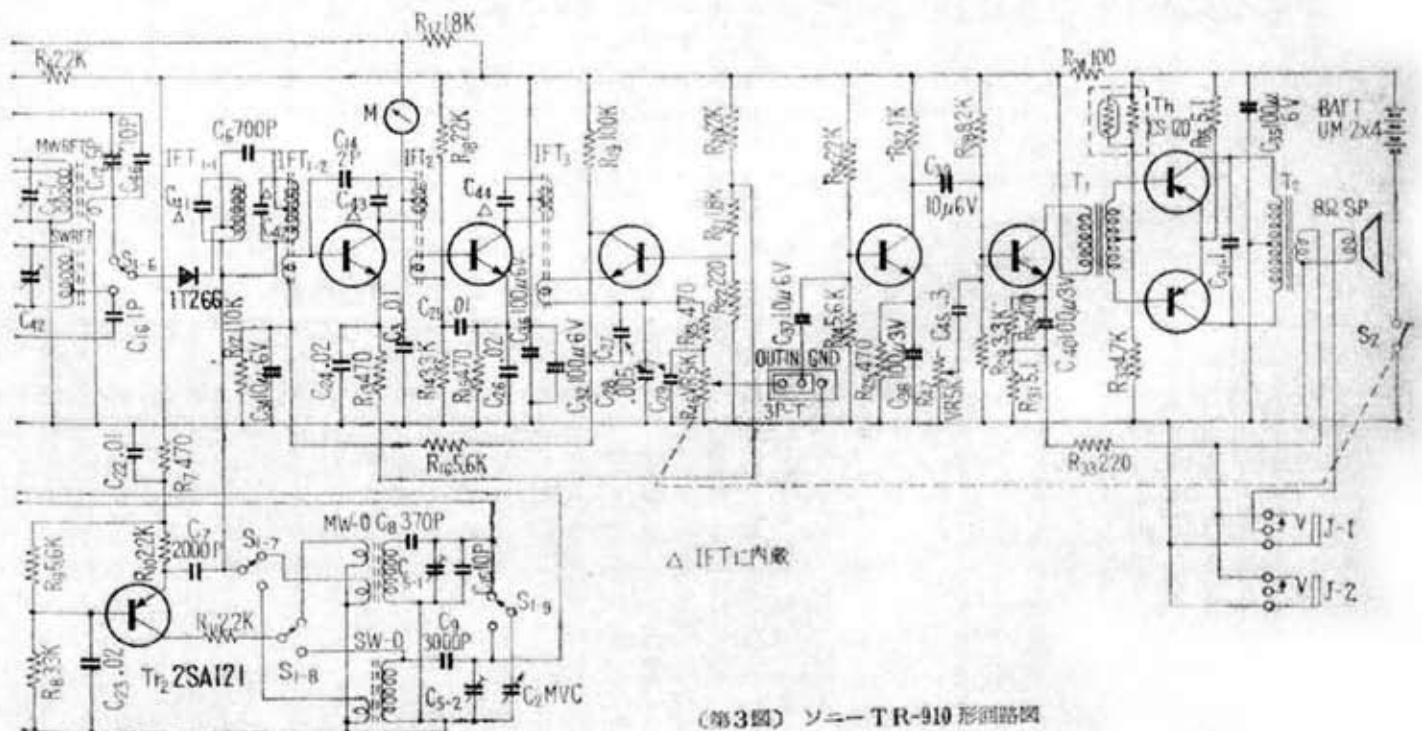
(第1図) ひずみ特性

Tr_3 2SC76 Tr_4 2SC76 Tr_5 2SC76

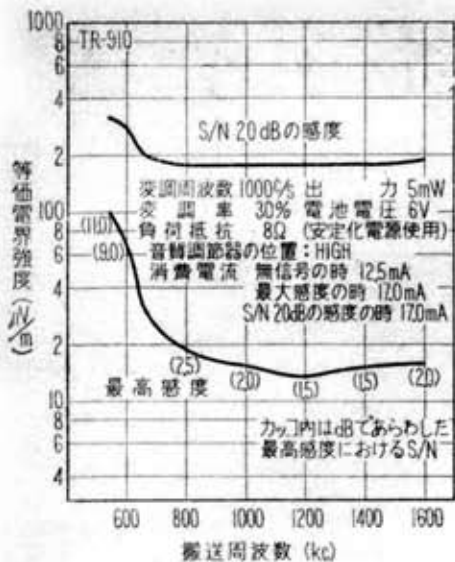


(第2図) 選択度特性

Tr_6 2SD65 Tr_7 2SD66 $Tr_8, 9$ 2SB52



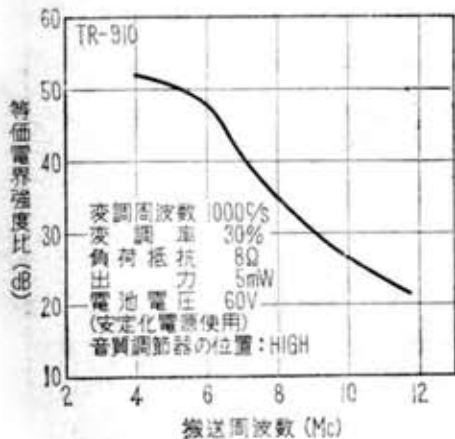
(第3図) ソニーTR-910形回路図



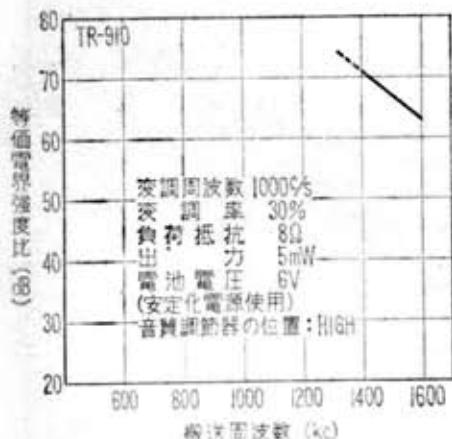
〔第4図〕 中波感度特性

し高周波増幅つきである点に注意)。感度差も5dBで問題はない。SW のとき S/N 20dB で 160 μ V/m ~ 190 μ V/m で、感度差も 1.5dB で良好である。イメージ妨害は、BC では 1,600kc で 63dB、1,400kc で 71dB、1,200kc 以下では 80dB 以上で測定不能と、非常に良く、SW でも 21.5dB ~ 52dB と優秀である。

選択度特性は通過帯幅 (-6dB)



〔第6図〕 短波影響妨害比特性



〔第7図〕 中波影響妨害比特性



〔第5図〕 短波感度特性

7.5kc、減衰傾度、10kc 離調時の減衰値は共に 30dB あり、混信の防止に役立つている。

電氣的周波数特性はこの種のものとしては良い。ひずみは、1,000kc 中信号 (5 μ V/m) で 3.3%、実用最大出力は 536mW と大きい。

以上で各メーカーから市販された数多くある新形トランジスタ・

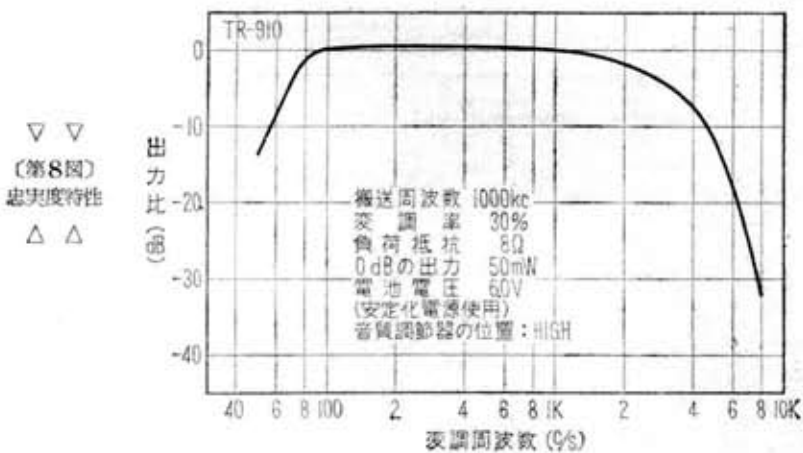
ラジオのうちから、特徴のある機種をクラスにわけて一機種づつえらびだして測定した。

もち論この取りあげたメーカーについては、編集部としては何の他意もなく、6石小形から1台、超小形のもの1台、7石のアクセサリ付を1台、現在トランジスタ・ラジオの中心となりつつある8石のものについてはそれぞれアクセサリ付きのもの3機種をとりあげ、中波専用で高周波増幅付きのもの1台、それに2バンド形では高級に属するものを1台というように配慮したものであることを

おことわりしておく。

この結果を一覧表にまとめたものが次の表で、この結果を参考に、次項目では、何故こういつた違いがでてくるのかといつた面を、機械的なまとめ方や、構成上の問題までふくめて解明することにした。

心よく機種をお借し下さった各メーカーに謝意を表します。



▽▽
〔第8図〕 選択度特性
△△

